

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 貴船 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、一部よくできている部分もあるが、全体としては「知識及び技能」「思考力、表現力、判断力等」ともに苦手とする傾向がある。後半の設問になるほど、解答形式に関わらず、無回答の割合が高くなる傾向がある。
	よくできた問題	話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題については、よくできていた。
	努力が必要な問題	思考力・判断力・表現力に関する「書くこと」については、解答率、正答率とも低く、努力が必要な部分がある。
算数	全体的な傾向や特徴など	基礎的な計算問題は比較的できて部分もあるが、全体としては「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに苦手とする傾向がある。後半の設問、解答形式が短答式、記述式の設問は、無回答率が高くなる傾向にある。
	よくできた問題	被乗数に空位のある整数の乗法の計算に関する問題についてはよくできていた。
	努力が必要な問題	データの活用に関する問題については、表やグラフを読むことが苦手で、正答率が低く、努力が必要な部分がある。
理科	全体的な傾向や特徴など	生物の観察や体のつくりに関する選択問題については、正答率が比較的高かった。どの領域においても、解答形式が短答式、記述式の設問は、無回答率が高くなり、正答率も低くなる傾向にある。
	よくできた問題	「生命」を柱とする領域については、比較的よくできていた。
	努力が必要な問題	「エネルギー」を柱とする領域については、正答率が低く努力が必要な部分がある。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
「学校に行くのは楽しいですか」という質問には、「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と答えた児童が、80%をこえている。「勉強は好きですか」という質問には、国語、算数、理科とも、「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と答えた児童の割合は、全国の割合を上回っている。「授業の内容はよくわかりますか」という質問に対しては、「あてはまる」「どちらかと言えばあてはまる」と答えた児童が国語は、65%、算数と理科は85%をこえている。これらのことから、本校の児童は、学校生活や授業については、概ね満足していると考えられる。 「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」という質問に対して、「どちらかと言えばあてはまらない」「あてはまらない」と答えた児童が40%をこえていた。 「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか」という質問に、3時間以上と答えた児童が60%をこえている。「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に「あまりしてない」「してない」と答えた児童が60%をこえている。 学校への満足度は高く、教師とも良好な関係性が築けていると考えられる。これからも児童同士の良好な関係性を築くことを意識すること、伝え合うことを通して学びを深めるような授業をすることを大切にしていきたい。家庭での学習の大切さについても伝えて続けていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

視写や音読など、言葉の力の基礎となることを学校全体で丁寧に進めていく。
話し合いを通して考えを深めるような学習を計画的に実施する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

メディアやゲームとの関り方について、情報提供を続ける。「携帯スマホ10時OFF」「ノーテレビデー」など。
基本的な生活習慣や家庭学習の大切さにについて、学校だよりや懇談会で伝え続ける。